

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770800292		
法人名	医療法人 博心会		
事業所名	グループホーム「うちな～家」		
所在地	沖縄県浦添市仲間3丁目1番1号		
自己評価作成日	平成24年12月13日	評価結果市町村受理日	平成25年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4770800292-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成25年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の一角に施設があり、散歩、買物など近くのスーパーへ入居者と一緒に出掛け、自治会の方も定期的に訪問があり、ふれあいを楽しんでいます。基本の「高齢者の尊厳を支えるケア」を職員全体で共通認識を図り、個々の入居者に添ったケアを確認し合いながら、入居者の気持ちに寄り添える関わりができることで入居者の笑顔が引き出せるよう、日々切磋琢磨を重ね、さらにより良いケアを目指し取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は交通の往来が賑やかな商業地と住宅街入口に立地し、双方とは上手に連携を図っている。地域の自治会の協力が大きく、事業所への友愛訪問は恒例化し、行事計画の一枚を担っている。地域密着型サービスを十分理解し、入居者が家庭的な環境で過ごせるよう食事を始め、日常的な外出や周辺住民との関わりにも積極的に取り組んでいる。入居者一人ひとりの情報を把握し、生活歴や職歴、趣味や嗜好等を介護計画に反映して作成し、生活や活動で意欲を引出せるよう毎月全入居者のカンファレンスを実施し、職員間で共有し支援に活かしている。今後は、更に職員間で理念の共通理解に努め、統一したケアの実践に繋げて頂きたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを意識して活動を支援、本人の気持ちに添うケアを理念に掲げているが、職員や入居者の入れ替えがあり満足とは言えず、今後、今の状況に添った法人の理念を基に見直し又新たに具体化し共有を図る必要がある	地域密着型サービスの意義を踏まえ作った理念の基、入居者への支援を実践している。職員の異動等もあり、理念の捉え方の相違が支援内容にも影響を及ぼすと考え、理念を実践する為の心構え等の具体化に取組みたいとしている。	事業所が目指す地域密着型サービス事業所として、入居者への支援を職員間で統一して取組めるよう、職員間での検討を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を日課とし、食材等を近くのスーパーへ買物、自治会より定期的な友愛訪問、散髪ボランティア、又近くの給油所より臨時の駐車場借用依頼があったり、ホームの活動で作った菓子を近所におすそ分けや、近くに住んでいる家族より差し入れ等があり交流を深めています	地域の社会資源と近隣との関わりを上手に活用し、入居者の散歩や外出、見守り等に繋げている。入居者が散歩を兼ねて買物に利用する店舗、イベント時に駐車場を提供する給油所、災害訓練等に参加協力する企業等、更に、入居者が作ったパンやお菓子を差入れ、相互に助け合う関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の日に市役所へ展示物を掲示しているがまだ自治会の老人会に向けて検討をしているも実行できておらず十分とは言えない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告と活動について意見を頂いたり、ヒヤリハット、研修報告、事業所の課題に対し参加者よりアドバイスを頂きながら職員へ報告しサービスの向上に努めている	運営委員会は利用者の参加は不定期だが、数名の家族と行政側も2名参加し奇数月で開催している。事業所が抱える課題(重度化や終末期等)について直に意見等情報を把握する機会と捉え、家族の参加を募る為アンケートを実施し、開催曜日の変更に行政側の協力も得て実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加協力、保険課、保護課へ事業所の現状を報告しアドバイスを頂いたり、敬老会へ参加協力を依頼し協力を得ている	行政主催の集団指導への参加や、「介護の日」のパネル展示に協力している。入居者家族の体調不良の要因で、受診支援等のサービス内容の変更等に付いて窓口を訪問したり、入居者の生活面について担当課と相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引」をもとに勉強会を実施し共通理解に取り組みました、入居者の安全配慮や行動を抑制しないケアを共有認識し抑圧感のない生活の支援に努めています	身体拘束について運営規定等で謳い、入居者の意思や人格、尊厳を尊重することを、職員は研修を通して理解している。入居者の仰臥時の柵使用については、家族の同意書や経過記録を整備している。日中の起き上がりの減少と見守りを重ねる事で、柵は夜間のみの使用に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の資料はあるも職員の勉強会は行っていない、不適切なケアについて入居者と職員の相合作用 影響を話合う機会を持ったが十分とはいえない		

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を必要とする入居者はいないため、勉強会は行えていない、一部職員の理解に止まっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、更新時や報酬の改定は家族様へ直接説明し理解、同意が得られるよう努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からの要望は運営推進会議や日頃の面会時など話やすい環境を心懸け反映させるよう努めている。入居者からの要望等は出来ることから実施できるよう努めている。	入居者は直に職員等へ意見や要望を伝え、家族は運営推進会議や面会時に表出している。家族から「往診の担当医の変更に伴い、治療方針も異なっている」との意見があり医療機関に伝えている。また、家族の面会時には、日中の活動写真や記録等で様子を伝え意見を引出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、普段から提案を聞く機会を心掛け反映、改善に努めているが十分とは言えない	職員は申し送りや半年毎の個人面談等で、意見や要望を表出している。事業所内は意見や提案が発言しやすい環境で、更に先輩職員が新任職員も気軽に発言できるよう配慮している。職員の休憩場所の確保が課題としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境や条件の整備に配慮して頂き、改善に努めていると思うが、十分ではないと感じている職員もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、外部研修派遣を行い、ミーティングにて報告をおこなうことで職員間で情報の共有、新任については担当職員を付け指導し質の向上に向け取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会主催の職員研修や浦添市グループホーム連絡会管理者会議勉強会に参加している		

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人面談で表情や口調を観察しながら不安を取りのぞけるような関係づくりを心掛け、安心感が持てるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の話を共感し聴くことに努め、何が不安なのか受容する姿勢で取り組んでいます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が納得した入居に繋げるため体験利用を取り入れ支援、他相談結果対象外でも他のサービスの情報提供を行い少しでも不安がなくなるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること、得意分野を職員で共有し本人の意思を尊重し作業等了解をえて一緒に過ごしている関係環境作りに努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話、メールにて本人の近況報告、病院受診協力依頼、余興依頼を行い関係が途切れないよう支援しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に行きつけの美容院へ行く入居者、一時帰宅、以前住んでいた所へドライブなどする入居者もいるが限られており殆んどが家族以外の関わりの支援は十分ではない	入居者の社会的関わりは、家族や外出先で出会う地域の方から情報を得て支援に繋げている。正月や旧盆時に入居者の要望で親族等へ電話を入れたり、入居者の出身地域の知人からは電話や花束が届いている。また、法事等での一時帰宅も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性を職員が共通認識し入居者同士のトラブルにならないよう支援している		

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の関係者へ情報提供を行い支援し本人への面会も行なわれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりで本人の訴えを聴きながら意向に添うよう支援し、困難な方は本人の気持ちを受止られるよう努めている。	入居者の思いは日々の関わりの中で把握し、可能な限り支援したいとしている。入居者が寝つけない場合は職員と一緒にフロアで過ごしたり、「遅くまでテレビを見る」「朝寝」「家事」「散歩」等の意向も尊重し個別に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、から情報収集し把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングで本人の生活リズムや、できる力、能力を話あい、職員で共通認識することでその力が発揮できるよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り・記録・モニタリング・カンファレンス職員からの意見、・家族から情報収集などで現状に応じた介護計画作成に反映させている	介護計画は、サービス担当会議に入居者や家族が参加して作成し、毎月の全入居者のカンファレンスと定期的モニタリングを通して定期や随時の見直しに繋げている。入居者個別に役割や趣味、嗜好を日常の活動に盛り込み、入居者の意欲を高めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は個別で記録し、始業前の申し送り等で共有している工夫としてダンス・バランスボールで緊張緩和・手指のタッチング拘縮予防等、気づきが工夫され実践中、今後は職員が共有できるようプランへ反映させていく		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、受診同行、薬の受け取り一時帰宅送迎、地域散髪ボランティアの支援している		

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館利用、暑中見舞い、お礼状を郵便局で投函、自治会の慰問、スーパーを利用し食材の買い出し、地域の散髪ボランティア、地域住民の消防訓練協力、運営推進会議へ市役所職員や地域包括センター職員参加・イベント行事に参加で交流ができています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっており、必要な時は受診同行や情報提供を行い支援している	事業所入居後もかかりつけ医を継続して受診し、家族には書面等で情報提供をし、受診後の結果を口頭で受けている。薬の管理は管理者と職員でチェックし、医療機関とはファクスでの確認や居宅療養管理指導書で共有し連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいないため、受診の際日頃の健康状態や状態変化等の情報提供をおこない支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	現在入院中の入居者はいないが、入院した際は早々に医療機関へ情報提供を行いながら状況確認し家族の不安等聴くよう心懸けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前ホームで看取り行っているが事業所としての明確な方針がないため、家族との話し合いをもち事業所の現状を伝える機会をもちました今後は個別で重度化に向けて家族の意向を確認し何処まで支援できるか見極めさらに法人、職員全体で話し合い不安のないよう取り組みたいと考えています。	重度化や終末期について未だ方針の明確には至らず、運営推進会議で直に事業所の現状を参加した家族等への説明に留まっている。職員は、看取りについての市在宅医療ネットワーク講座に参加している。	事業所の方針を明確にして、重度化や終末期に向けて取組めるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急救命法の研修は行ったが定期的に行えていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を家族の協力や火災通報連絡網で地域の協力を得ながら実施しました備蓄に関する確保はできていません	避難訓練は、5月に夜間、11月には昼間を想定して実施し、地域住民や家族も参加して避難場所での見守り等で協力している。事業所内は、スプリンクラーや煙探知器等を設置し、機器点検も実施している。職員は7月、8月と災害対策について市やグループホーム連絡会等でも話合っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃、意識し対応が行われていると思うが時折、入居者とのやり取りの中、語調が強くなる場面もあり、入居者の尊厳を守る上で常日頃からお互いに、確認しあい、入居者、又相手のために注意し合えるような環境づくりに努めていく	管理者は、入居者を人生の先輩、年長者として尊重し、意識して丁寧な言葉かけをするよう職員に話している。職員は基準マニュアルで日常生活全般の適正な言葉かけの統一に努めている。個人ファイル等の管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思表示される方はできていると思われる、困難な方にも必ず声かけを行い、表情などで本人の意思を確認するよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はありますが、本人と相談し意思を確認しながら「遅くまでテレビを見る・朝寝・家事作業の有無、散歩の有無等、本人の気持ちを尊重し支援しています。しかし行きたいところの外出希望などは十分とはいえない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者へ着替えの衣服を選んでもらったり化粧等できるかたには声かけをしています。食べこぼしなどの衣服汚染は早めの更衣を心がけ支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物、食材カット・できる方に調理、味付け、配膳、片付け、洗物を声かけをしながら、職員と一緒にしていますが、全てが入居者自ら進んで行えている状態ではなく、前向きな気持ちが引き出せる工夫が必要と考える	食事は3食事業所内で調理し、入居者一人ひとり調理過程で担当する場面に参加している。事前に前掛けや下ごしらえ用の手袋等、作業環境にも配慮し活動への意欲に繋げている。職員は、入居者と一緒にテーブルを囲み、弁当を食べながら言葉を交わしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表で食事・水分摂取量を把握、嗜好に合わせた食材、食事形態の提供を職員が意識情報共有を行いながら飲食の低下予防に努めています。嚥下機能低下予防のため口腔体操を支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ見守りや、できない方には入居者の状態にあわせブラッシング、ガーゼで口腔ケア、ポリドントを使用し支援しています		

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、昼間は全入居者がトイレでの排泄支援、オムツ、パットも時間対や本人の状態にあわせ見直しています。	入居者個別に排泄チェック表を活用し、全員日中はトイレへ誘導している。入居者の状態に応じたオムツやパットの使用に取組み、リハビリパンツから綿パン等の改善に繋げている。また、入居者自身が残存機能を活かし自立できるよう、ズボンの上げ下ろしを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、芋、個別にプルーン、ヨーグルト、青汁又、体操、散歩を取り入れ支援しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調にあわせ、一日おき、本人の意思確認をおこない、午後入浴となっている。希望する際は予定外でも極力希望に沿うよう支援に努めているが十分ではない	入浴は一日おきの午後に設定し、入居者の希望にも応じるとしている。入居者自身ができることを優先して支援し、職員も同性介助の体制で臨めるよう勤務調整をしている。毎日の化粧が習慣化している入居者は、入浴後、居室で整容に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えており体調や本人の希望、昼間の仮眠が夜間の不眠にならないよう支援しています。夜間寝付けない方にはフロアで職員と就寝まで一緒にすごし不安のないよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する情報を、職員が把握できるよう、ファイルに保存、変更時はそのつど日誌へ掲示し、変更時の状態変化の観察を記録し医療との連携が図れるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換が図れるよう行事、外出、できる限り本人の望むような役割が喜びにつながり、楽しみことを引き出せるよう職員が工夫し・ダンスなど支援に努めています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、買物、歩行困難な方も外気浴、個別では家族の協力で食事会、一時帰宅など行われています	朝の事業所周辺の散歩や玄関前で外気浴を行っている。月に1回ドライブを実施し、首里城の見学や季節の花見に出かけ、浜下りでは重箱を持参している。個別の買い物支援を計画に取入れ、月1回衣類や化粧品、おやつ等の買い物に出かけている。	

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いとして事業所が殆ど管理しており一部の方のみ、本人管理で希望があれば職員と一緒にスーパーへ買物へ出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話の取り次ぎや、本人から家族への電話の要望があるとき、間違い電話のないよう職員が支援したり年賀状を一緒に出せるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に職員と一緒にフロアの壁飾りを作り換気、室温調整、選曲を意識し支援しています	共用空間には、ソファや藤椅子、テレビやテーブルを配置し、入居者の見守りや動線に沿うよう工夫している。玄関前には花の鉢植え、壁には入居者提供の扇子や季節毎の作品を掛けている。、ソファや椅子の座位保持用の足置き、加湿器で室温調整等、快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファ、藤椅子、玄関の長いすなどで一人で過ごす時間やコミュニケーションが取れるような配置をしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で写真、家具持ち込みがありますが限られた方になっています。すこりでも温かい雰囲気を出すため写真を貼ったりと工夫しています	居室には、ベットとタンスを設置し、入居者や家族に関係する物品を持込んでいる。例えば、好きな関取の写真、習字や作品、本やパズル、鏡台や時計、宗教関係の仏壇等、入居者一人ひとりに合わせた居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全配慮の基、危険物排除をその都度職員に確認しあい、フロア、浴室、台所環境整備に努めている、下膳もカートを使い一人ひとりが下膳できるよう工夫しています		